

令和3年5月14日（金曜日）



足立参院議員

参院
国交委

港湾整備の必要性質疑

国際的地位向上へ予算確保を

自民党の足立敏之参院議員は13日の参院国土交通委員会で、海運業や造船業の振興と港湾インフラ整備の必要性について質問した。写真。アジアのコンテナ輸送拠点が中国や韓国の大型港に移り、日本の港湾の国際的地位が低下し続けている現状を再三指摘。国内経済の浮上のためにも「船舶の大型化への対応や脱炭素化の推進などの視点で港湾分野の予算を拡大し、整備を進めていく必要がある」と訴えた。

これに赤羽一嘉国土交通相は、大型化対応や最先端技術導入が進むシンガポールなどの港湾を引き合いに出し「進化のスピードが違う。日本は強烈に反省しなければいけない」と強調。事態を打開するには「集約化と一つ一つの港湾の生産性向上に尽きる」と話した上で「予算を増やすことも大事だが、予算をどう使うか。どう生産性向上などに切り込んでいくかだ」とし、適切な対応に当たる考えを示した。

高田昌行港湾局長はアジア諸国と比較し、大型船舶に対応する水深16メートル以上の岸壁の数などで立ち遅れていることを認めた上で、さまざまな観点で未来に向けた投資が必要との考えを示し「防災・減災、国土強靱化に必要な港湾インフラ整備を加速する必要がある」と述べた。